

平成26年度 部局長マネジメント方針

かわさき むつこ
社会教育部長 川崎 睦子



仕事に対する基本姿勢

子どもたちが心豊かに育ち、若者が誇りをもっていきいきと活動し、成人が学びを通じて生きがいを持てる社会の実現が社会教育行政にたずさわる者としての使命だと考えております。

社会教育部では、青少年の健全育成、いつでも学べる環境づくり、地域の特性をいかした地域から学ぶ機会の充実、地域における教育力の向上、家庭における教育力の向上をめざして、さまざまな団体や多くのボランティアの皆様のご理解とご協力のもとに施策を展開しています。

また、図書館、体育館、公民館、埋蔵文化財センター等、多数の施設を所管し、市民の皆様に学びやスポーツを楽しんでいただいております。

そしてこれらの施設をご利用いただく中で、学習や交流を契機に「つながり」が生まれ、「絆」が強まり、市民ご自身にも地域の学びの担い手になっていただけるような「人材」が育ち、持続可能で活気あふれる地域の学びの場が数多く生まれ育ちますことを心から願っております。

仕事に対しましては、「市民のご意見をしっかりと伺いすること」、「市民の皆様との協働」、そして「職場を超えた職員間の連携」を信条に、社会教育行政の推進に誠心誠意努力してまいります。

平成26年度に取り組む重点課題

1 図書館基本構想の策定

昨年度策定された「東大阪市公共施設再編整備計画」により、耐震性に課題のある旭

町図書館を南四条町に移転し新東部地域図書館（平成33年度開設予定）として、また現在布施駅前再開発ビル内で運営している永和図書館（暫定施設）を荒川三丁目に新永和図書館（平成31年度開設予定）として整備することが決定しました。

今年度はこれらの実現に向けて本市図書館の全体構想を検討するとともに各図書館の機能や規模、コンセプト等を示す基本構想を策定します。

2 文化財施設再整備基本構想の策定

昨年度策定された「東大阪市公共施設再編整備計画」において、南四条町に新博物館・埋蔵文化財センター及び資料収蔵施設を新東部地域図書館とともに新文化複合施設として整備することが決定しました。平成33年度開設をめざし、今年度は施設の機能や規模、コンセプト等を示す基本構想を策定します。

3 留守家庭児童育成事業の推進

本市では、各地域運営委員会の運営により「留守家庭児童育成クラブ」において、留守家庭児童の放課後の受け入れを行っていただいています。

平成24年度に子ども・子育て関連3法案及び関連法案が成立し、これを受けて設備・運営にかかる国の基準が示されました。ニーズ調査等の結果を踏まえ、平成27年度の本格実施をめざし、留守家庭児童育成事業の拡充を図ってまいります。

4 河内寺廃寺跡史跡公園の整備

河内寺廃寺は飛鳥時代後期に渡来系氏族であった河内直（かわちのあた）氏によって建立され、鎌倉時代の終わりのころまで続いたと考えられています。

発掘調査で見つかった南北に並ぶ塔跡、金堂跡、回廊などの配置から、四天王寺式の伽藍配置であることが確認され、国史跡に指定されました。

貴重な史跡を市民の皆様に親しんでいただける史跡公園として整備するため、平成28年度末の工事完成をめざし、今年度は実施設計を行います。